

社長のための勉強

令和2年1月15日

〒540-0012 大阪府中央区谷町2-7-4

株式会社堀口オフィス

TEL 06-6910-6412 :FAX 06-6910-6414

《5年後のカーライフ》

自動運転には0～5まで6つのレベルがある。自動車メーカーは完全自動運転のレベル5を目指す、それはいつ実現するのか？

自動運転には大きく2つの流れがある。ひとつは乗用車、もうひとつが公共交通だ。国産オーナーカーでは、衝突被害軽減ブレーキ、車線逸脱防止装置など、レベル2まで実用化された。2020年にはホンダを筆頭にレベル3（条件付運転自動化）が実用化される。

レベル3では運転の主体がドライバーからクルマのシステムに移るため、走行中に運転席にいても、システムの要請に即座に対応できることを前提に、読書などが可能になる。こうした行為をセカンドタスクと呼ぶ。ただし、周囲のクルマとの関係から、当面は渋滞時の低速走行中のみとなりそうだ。

一方、サービスカーは米ウェイモやウーバーがレベル4（高度運転自動化）のタクシーで、20年代前半のサービス開始を狙う。日本ではトヨタが商用向けのE-パレットでレベル4を目指す。

技術的には自動運転の実現はもう目の前。課題は、社会が自動運転をどう受け入れるかである。

レベル0・・・ドライバーが全てを操作

レベル1・・・システムがステアリング操作 加減速のどちらかをサポート

レベル2・・・システムがステアリング操作 加減速のどちらもサポート

レベル3・・・特定の場所でシステムが全てを操作 緊急時はドライバーが操作

レベル4・・・特定の場所でシステムが全てを操作

レベル5・・・場所の限定なくシステムが全てを操作

HORIGUCHI
Accounting & Tax office

郵送ではなく e-mail での配信を希望される方はご連絡ください